

怖い脂肪肝

～非アルコール性脂肪肝炎（non-alcoholic steatohepatitis : NASH）について～

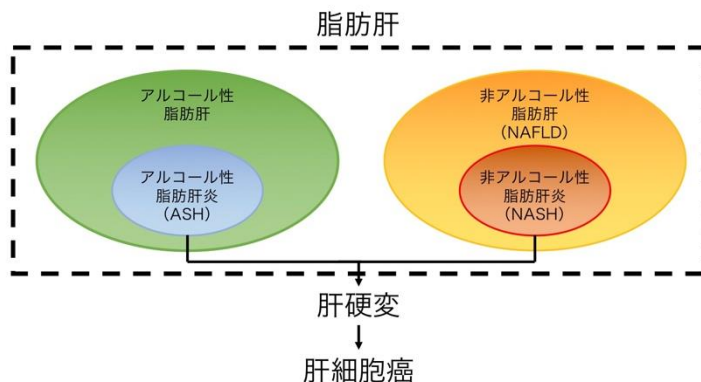
はじめに

食の欧米化や運動不足などの生活習慣により、日本の肥満人口は増加の一途をたどっています。そのため、肥満と関連すると言われる高血圧・脂質異常症・糖尿病・脂肪肝などの生活習慣病も増加の一途をたどっています。生活習慣病とは内臓脂肪が蓄積する事によって、生じる全身疾患であり、メタボリック症候群とも言われ、このメタボリック症候群が肝臓に影響を与えたものが「脂肪肝」であります。

NASHとは？

以前は脂肪肝というと、肥満により肝臓に脂肪が貯まっている状態であり、あまり問題なく痩せれば良くなると程度に思われていました。しかしながら、その後その脂肪肝の中にはしばしば炎症や線維化を伴い、肝硬変に進行し、肝細胞癌が生じてくる場合がある事がわかってきました。この経過はアルコール多飲者の肝疾患経過と似ており、1980年に米国 Ludwig により非アルコール性脂肪肝炎（non-alcoholic steatohepatitis : NASH（ナッシュ））と名付けられました。

肝臓に脂肪が沈着する原因は大きく分けて、大きくアルコール性と非アルコール性から分類されます。アルコール性の場合、脂肪肝、アルコール性肝炎、アルコール性肝硬変、アルコール性肝癌（肝細胞癌）と進行します。一方、非アルコール性は非アルコール性脂肪性肝疾患（non-alcoholic fatty liver disease : NAFLD（ナフルド））という概念にまとめられ、この概念の中で、肝硬変、肝細胞癌に至る可能性がある怖い肝疾患がNASHと呼ばれます。今回はこのNASHについて簡単に解説いたします。



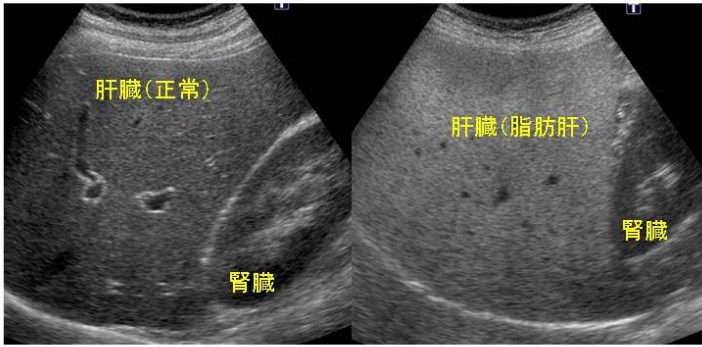
NASHの頻度は？

我が国においては、2011年に厚生労働省より、NAFLDは約1000万人、NASHは約200万人と推定され、NASHは総人口の約1.5%と推定されていました。しかし、近年の報告では総人口の3-5%程度である約400-600万人程度がNASHと推定され、今後も増加してくると予想されています。思っているよりもNASHは多いということです。

NASHの診断は？

肝障害や脂肪肝があった場合、飲酒歴、血液検査や超音波検査でNAFLDを診断すること容易であります。しかし、NAFLDの中からNASHを区別するのは難しいのが現状であります。現時点では肝生検といって、肝臓に細い針をさして肝臓の組織の一部を採取し顕微鏡で観察して診断することが標準的となります。針を刺すときは局所麻酔を行い、超音波検査の画面をみながら安全な部位を刺しますので、基本的には安全な検査ですが、ごくまれに出血などの合併症を起こすので2-3日の入院が必要になります。結果は1-2週間ぐらいで判断できます。また、非侵襲的つまり体へのダメージが少ない検査の研究も進んでおり、血液検査の項目としてAST (GOT)、ALT (GPT)、血小板数、フェリチン、線維化マーカーなどにより、ある程度NASHの存在を予想することもできるようになってきております。

肝臓の超音波検査写真



左が正常で肝臓と腎臓ではわずかに肝臓が薄い灰色です。しかし右の脂肪肝の肝臓では腎臓に比べかなり白っぽく見えます。脂肪が肝臓にたまっているため白っぽく見えてしまいます。

NASHを放置すると？

NASHを放置した場合どうなるかは正確にはわかっていませんが、肝臓の線維化つまり肝硬変に進んでいくものが1/3あり、変化しないものが1/3、改善するものが1/3あると言われております。ただ、肝硬変に至った場合は、肝臓が元に戻ることはなく、1年間で2%の人に肝細胞癌が生じるとされており、決して放置するべきではありません。

NASHの治療は？

NASHに対する治療の中心は食事療法、運動療法による生活習慣の是正となります。また、NASHは、肥満・高血圧・脂質異常症・糖尿病などの生活習慣病を高頻度に合併しており、それらの疾患に対する厳密な治療がNASHに対する治療にもなります。さらに、現在NASH自体に対する薬物療法の研究も進んできておりますので、一度担当医とご相談下さい。肝硬変になると元には戻りませんので、危機感を持って治療に取り組むことが大切です。

肝細胞癌が生じた場合は？

肝細胞癌はもともとウイルス性肝炎の方から多く発症する疾患でありましたが、ウイルス性肝炎以外から肝細胞癌になる頻度は1996年時点7.6%であったものが、2010年時点では27.3%と約3倍に増加し、その多くはNASHからの発癌と言われております。NASHと診断された患者さんは、肝細胞癌のリスクが高いため専門医によるスクリーニングが必要です。万一肝細胞癌が発症した場合でも、ラジオ波焼灼療法をはじめ肝細胞癌に対する治療経験が豊富であり、そのまま継続して治療を受けて頂ければと思います。

NASHから発癌した症例

60歳台男性、脂肪肝で近医通院肝腫瘍指摘され紹介

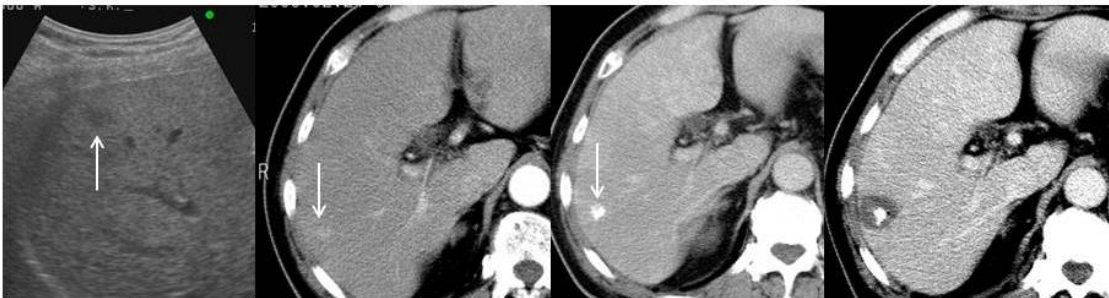


図1 白っぽい脂肪肝の肝臓に1cmの黒っぽい腫瘍を認める(↑)

図2 CTで造影剤でわずかに白くなる(↓)

図3 血管造影で肝癌が白く明るくなる(↓)

図4 ラジオ波治療で癌を含んで焼灼し、壊死領域が癌の周りに広がっている

血管造影で肝癌と診断、ラジオ波治療で壊死させました。なお同時に肝生検も行いNASHと診断されました。その後7年経過していますが、元気に近医に通院中です。